

前橋テルサへの民間活力導入に向けた今後の考え方

1 経緯と現状

前橋テルサは、行財政改革推進計画への位置づけを踏まえ、民間活力の導入の可能性について検討を重ね、2度の事業提案型公募を実施したが、提案の採択には至らなかった。

その後、商工会議所にて官民連携による管理運営の検討も進められたが、多岐にわたる施設機能を活かしながら大規模改修費用を負担できる事業者を見出すことは非常に困難なことから、建物については解体を行い、当面は中央イベント広場の代替広場として活用し、まちの動きや社会情勢を踏まえながら、新たな活用策の検討を進める方針を令和6年8月に決定した。

さらに令和7年4月には、新たな活用策に関する公募等の要件整理につなげることを目的として活用の意向と提案実現の可能性を把握するため、既存建物の利用の可能性調査も含めたサウンディング型利活用調査を実施した。

2 今後の考え方

従来の方針では建物を解体して新たな活用策の検討を進めるとしているが、サウンディング利活用調査の結果、民間活力の導入に当たっては、市による建物解体費等の負担があれば実現の可能性があることがわかった。

また、同調査の結果、既存の設備やフロア機能など前橋テルサの特性を活かした事業展開の意向を示す提案を確認でき、いずれも市に対して一定の負担を求める内容ではあったが、中心市街地の活性化に資する可能性を期待できるものも認められた。

そこで、民間活力導入の目的の一つでもある、市の財政負担の縮減が図られることを前提に建物解体による活用と既存建物の利用にて3度目の公募を実施する方向で要件整理を進める。